審査の結果の要旨

氏名　　酒井　智子

本研究は、難治癌とされ Quality of Life（以下、QOL）の改善・維持が重要となる膵癌について、膵癌に特異的な QOL 尺度の日本語版の開発と、それを用いた実態調査およびその関連要因の検討を目的としたものであり、下記の結果を得ている。

1．欧州で開発された、膵癌に特異的な QOL 調査票、European Organization for the Research and Treatment of Cancer QLQ-PAN26（EORTC QLQ-PAN26）に着目し、原版作成組織である EORTC の尺度翻訳マニュアルに則り、また原作者と連絡をとりながら、順翻訳・逆翻訳および患者を対象としたパイロットテストを行い、EORTC QLQ-PAN26 の日本語版を作成し、本邦における膵癌患者の QOL の測定を可能にした。
2．膵癌患者 75 名を対象とした EORTC QLQ-PAN26 日本語版の信頼性・妥当性の検証の結果、一部の項目の表面的・内容的妥当性および殆どの尺度の内的整合性については、再検討の必要があった。しかし、尺度が心理的傾向ではなく膵癌に特異的な症状を主に尋ねるため、計量心理学的手法での検討には課題があった。既知集団妥当性や併存妥当性の結果は概ね確認されているため、膵癌に特化した、患者の状態を示すものとしての尺度の使用により、臨床において、患者の詳細なアセスメントやスクリーニングが可能になり、迅速かつ適切な支援につながる可能性がある。今後行う予後との関連の検討により、予後予測につながる可能性も検討する必要がある。
3．膵癌患者 75 名を対象とし EORTC QLQ-PAN26 日本語版や EORTC QLQ-C30 を用いて測定した QOL を本邦および海外の先行研究と比較した結果、より進行した膵癌患者より良く、他の癌の化学療法導入前や手術前の患者より悪かったため、膵癌患者の実態を把握できるものと考えられる。
4．QOL の関連要因の検討の結果、膵頭部癌または疼痛や黄疸がある患者や、化学療法の変更を経た患者、抑うつ状態にある患者については QOL が悪い尺度がみられ、その内容毎に、身体面・心理面や日常生活への支援のさらなる検討の必要性が示唆された。
5．抑うつ尺度への回答者 60 名のうち、抑うつありとなった対象者は状態の思わしくない患者を除外したにも関わらず 13 名（21.7%）であり、また抑うつありのほうが殆どの尺度で EORTC QLQ-PAN26 日本語版および EORTC QLQ-C30 を用いて測定した QOL が悪かったため、早期からの支援および専門家への相談や継続的なアセスメントが必要であることが示唆された。

以上、本論文は、膵癌患者に特異的な QOL 尺度の日本語版の開発を行い、その臨床における使用可能性を示した。また、QOL の実態およびその関連要因の検討により、さらなる支援の検討への契機を示唆した。本研究は、QOL の改善・維持を目標とする膵癌患者の QOL の詳細な測定および迅速な支援に向けたアセスメントを可能にする尺度を本邦において初めて開発したものである。独創的で学術的に価値があり、臨床的有用性をも兼ね備えた研究であるため、学位の授与に値するものと考えられる。